

決算審査特別委員会 審査の概要

9月定例会に提案された平成19年度各会計の決算認定案は、決算審査特別委員会に付託され、議会閉会中に、現地視察を含め、3日間にわたって審査を行いました。12月定例会初日に委員会審査の概要が報告され、2名から反対討論がありました。いずれも認定と決しました。

なお、決算審査特別委員会における質疑応答の一部は、次のとおりです。

一般会計・各特別会計決算

問 個人市民税などに計上されている収入未済額について、愛媛地方税滞納整理機構での徴収成果を問う。

答 愛媛地方滞納整理機構への移管件数は60件、滞納税総額は約8千万円であったが、機構による徴収額は、本税が約3千500万円・督促手数料が約6万円・延滞金が約1千130万円の計約4千630万円であり、本税の収納割合は43・11パーセントと

なっている。

問 交通安全対策費に関し、高齢者交通安全アドバイザー事業の成果を問う。

答 平成18年1月から、高齢者の交通事故を防止するため、アドバイザー4名が市内の70歳から89歳までの高齢者宅を訪問し、交通安全に関する資料や反射材の配付、交通危険場所の情報収集などを行っている。

その結果、高齢者の交通安全に対する意識が高まっているのは事実であり、事業を継続することと成果は現われてくるものとして理解している。

問 地方バス路線運行費等補助金に関し、平成19年度の利用状況を問う。

答 地方バス路線の利用者数については、平成18年度と比較すると、国庫補助4路線で1千734人の減、市単補助4路線で1万1千695人の減となっているが、廃止代替バス6路線では75人増加しており、全体では1万2千714人の減少となっている。

問 公衆浴場無料開放事業費補助金に関し、対象浴場と利用状況を問う。

答 本事業では、公衆衛生浴場組合加入の西条地区の吉原湯・福長湯・湯之谷温泉、東予地区の宝湯、丹原地区の道前溪温泉が対象で、無料開放チケットの使用枚数は延べ13万6千248枚となっている。

問 西条ファミリー・サポート・センターの運営に関し、講習会の受講者数及び会員数・利用状況を問う。

答 同センターは平成19年4月に発足し、同年7月から運用を開始している。子育て支援に伴う講習会などは3回開催し、その受講者は約100名であった。平成19年度の利用実績は、保育所や幼稚園へのお迎えやその後の預かりなどで196件となっている。平成20年8月末現在での会員数は、依頼会員97名・提携会員74名・両方会員10名の計181名である。

問 道路交通安全施設整備費の安心歩行エリア整備事業

業について、整備区域の選定案件と整備効果を問う。



車道と区分された安心歩行エリア(市道西条16号線)

答 平成11年度から13年度の間に於ける交通事故発生件数が、1平方キロメートル当たり42件以上という規定に基づき、県内では6市15か所が採択された。当市では17年度からの3年間で事業を実施したが、エリア内の旧東予有料道路の無料化に伴い、交通量が増加したことから、交通事故の減少とはなっており、今後、警察などとも連携しながら、交通安全施策を講じていきたい。

問 西条駅前干拓地線改良工事費について、通学路である市道神拝西条1号線と本路

線の交差点に、信号機を設置すべきではないか。また、鉄工団地側の今後の植栽管理のあり方について、企業と協定を結ぶなどの検討をしようか。

答 交差点部分の安全対策については、現状の交通量から、当面は一旦停止により制御することとし、状況を見ながら必要に応じて信号機の設置を要望することとしたい。

また、植栽管理のあり方については、市内他所にも多くの街路樹があることから、今後、道路管理部署と検討したい。

問 自動体外式除細動器(AED)の保守点検などの管理状況や使用実績について問う。

答 AEDは、平成19年度に51基を購入し、平成18年度購入分と合わせた64基を公共施設に設置している。各設置施設では、月1回の定期点検を行い、消耗品の補充などの維持管理を行っている。AEDの使用実績としては、装着して病院搬送したことはあるが、実際に装置を作動させた事例はない。